

# 先進地調査報告書

令和5年8月21日

豊岡市議会議長 福田 嗣久 様

会 派 名 令和とよおかクラブ  
代表者名 代表 松井 正志

次のとおり、先進地視察を行ったので報告します。

調 査 先 名	【山形県酒田市】 ①日本一女性が働きやすいまち宣言について ②医療と介護の連携について 【山形県山形市】 ①小規模特認校について ②シェルターインクルーシブプレイス「コパル」について
調 査 期 間	令和5年8月8日（火）～10日（木）
調査参加議員名	松井 正志 田中藤一郎 石田 清 清水 寛 福田 嗣久 計5名
調 査 内 容	別紙のとおり
支出した政務 活動費の額	515,727円
そ の 他	

## 山形県「酒田市」視察

### 【テーマ①】

日本一女性が働きやすいまち宣言について

#### 【出席者及び説明者】

酒田市地域創生部地域共生課	課長	阿部典子
同	課長補佐	飯野寿久
同	主任	桐澤葉月

#### 【視察の趣旨と質問内容】

##### 視察の趣旨

本市では、2015国調で女性の若者回復率が男性の2分の1であったことなどから、2019年にワークイノベーション戦略、2021年にジェンダーギャップ解消戦略を策定し、地域社会や事業所に残る固定的な性別役割分担を前提とした仕組みや慣習の是正、無意識の偏見や思い込みなどへの気づき、女性のエンパワーメントを含む人材育成などに取り組み、いきいきと働く女性が多いまちを目指している。

御市では、2017年に「日本一女性が働きやすいまち宣言」をされるなど、早い段階から行政、経済団体、経営者などが連携して女性の個性と能力が発揮できるまちづくりを進められてきているので、その取組状況などについてご教授いただきたい。

##### 質問の内容

日本一女性が働きやすいまち宣言の趣旨やねらい、行政や企業の取組内容、目標とした指数とその実績、宣言の波及効果、課題や今後の展望など。

#### 【説明の主な内容】

##### ・山形県の現状

共働き率 71.2% (全国 第1位)

育児をしながら働く女性の割合 79.0% (全国 第4位)

1日当たりの仕事・家事等の平均所要時間

平日	仕事	女性：400.5分	男性：478.0分
	家事	女性：201.9分	男性：67.0分
	育児	女性：100.0分	男性：18.2分

##### ・雇用形態

H29	正規雇用	女性：53.0%	男性：80.3%
	非正規雇用	女性：47.0%	男性：19.7%
H24	正規雇用	女性：49.3%	男性：78.2%
	非正規雇用	女性：50.7%	男性：21.8%

・酒田市の現状

人口 96,466人 (R5.6.30現在住基人口台帳より)  
 ※H17➡H27 10年間で△11,333人減  
 H27➡R5 8年間で△9,778人減

・雇用情勢 (R5.7.1ハローワーク酒田)

有効求人倍率 1.32倍 (山形県平均 1.35倍)  
 R5.3月新規高卒者の就職状況 県内179人 県外94人  
 県内就職率 計65.6% 男性66.1% 女性64.6%

- ・酒田市の社会増減の現状としては、女性の流出が多い。
- ・H29年度市民フォーラムで「日本一女性が働きやすいまち」を目指す宣言を行った。同年、「酒田市女性活躍推進懇話会」設置。
- ・取り組む柱の3つのテーマ

- ①働きやすい職場環境整備
- ②家庭との両立支援
- ③女性のチャレンジ支援



[働きやすい職場環境整備]

- ①日本一女性が働きやすいまち宣言に賛同する READER の会 8/8 現在94社
- ②女性が働きやすい職場づくりに取り組む事業所への奨励金制度



行動計画の策定 30万円  
 女性管理職の登用及び男性育児休業等の取得 20万円

- ・えるぼし認定 8/8現在6社で、全国9位  
 ※えるぼし認定：女性活躍推進法に基づき、一定基準を満たし、女性の活躍促進に関する状況などが優良な企業を認定する制度です。認定されると、「えるぼし」の認定マークを商品や求人票などに使用できる。
- ・情報発信として、自分らしくを応援するポータルサイト

[家庭との両立支援]

- ・病後・病後児保育 定員9名 R4年度延べ利用者数387人
- ・一時預かり保育

- ・休日等保育
- ・学童保育所 R5. 4. 1現在 児童数3, 993人  
登録児童数1, 283人  
待機児童数41人
- ・ファミリーサポートセンター R4年度利用者数 229人
- ・子育て支援医療費助成制度拡大
- ・保育料軽減施策
- ・男性の育児参画支援講座（男女共同参画）  
大人のための今どきの家庭科 家庭で取り組む時短家事セミナー  
ミニ講座@マタニティ教室「家事シェアのススメ」  
男性応援セミナー ※DV等相談

### [女性のチャレンジ支援]

- ・女性応援セミナー
  - ・サンロクIT女子育成プロジェクト  
※2023. 3サンロクIT女子活動拠点「リボンステーション」オープン
- 注) IT女子育成講座：定員大幅超える40名受講  
IT女子の仕事受注件数大幅増

### [宣言の波及効果]

- ・一般事業主行動計画を策定し、えるぼし認定に向かいたい前向きな企業
- ・女性活躍推進に自ら関心を持つ高校生
- ・女性活躍推進事業を一緒に考えてくれる市民
- ・本市女性活躍の取組に関心を持ち入庁する職員
- ・本市女性活躍の取組に関心を持つ他県企業

### [今後の展望]

- ・若い世代の女性の管理職指向が高い。
- ・男性の育児休業取得への高まり。

### 【所 感】

- ・酒田市の現状について、「女性の流出が多い」との分析とどまっているが、若者回復率の状況にも目を向ける必要がある。
- ・さらに、出生率についても、全国平均が1. 3（豊岡市は1. 7）、希望出生率が1. 8、社会構造を維持していく上では2. 03が必要であり、岡山県奈義町は2. 9を超えている。豊岡市が若者回復率だけに焦点を当てる説明をしているのにも問題がある。
- ・子供のいない家庭は、年収600万円以下で顕著な低下がみられるという（第一

生命経済研究所 永濱俊廣 氏)。年収600万以上では変化は見られない。(永濱氏は、経済財政諮問会議で、この年収層への政策強化を強く主張されていたようだが、入れられなかったようである。)

- ・少子化対策の基盤は、賃金と雇用の確保・改善である。
- ・なお、酒田市の説明では（豊岡市も同様）、出生率の向上の強制は人権にかかわるとの説明があったが、出生率が希望出生率以下であっては意味をなさない。
- ・政策効果の統計分析が精力的に行われ、その政策提言に鑑みると、現在検討中の施策はこれまでの少子化対策の拡充に過ぎず、効果はないとの認識には組みすることはできない。
- ・ジェンダーギャップ解消、ワークライフバランスの改善は長期的策として意味がある。短期的については、2025年度頃までに希望出生率1.8まで回復する必要がある。

## 【テーマ②】

医療と介護の連携について

### 【出席者及び説明者】

酒田市健康福祉部高齢者支援課	課長	杉山 稔
同	課長補佐	土井百合子
酒田市健康福祉部健康課	課長	小田 雅之
地方独立行政法人 山形県・山形市病院機構	法人管理部	
日本海ヘルスケアネット	推進室長	田中 愛久

### 【視察の趣旨と質問内容】

#### 視察の趣旨

本市を含む兵庫県但馬2次医療圏の面積は東京都とほぼ同じでありながら、人口は15万8千人、高齢化率は36.5%の中山間地域である。入院需要のピークはすでに超えているといわれる一方、在宅患者数や介護需要はこれから高い割合で推移することが見込まれている。圏域の療養病床は人口当たり全国平均の半分以下、市内の内科系開業医の約4割が70歳代以上で、慢性期の医療環境や在宅医療の人材不足などが危惧されている。

御市を含む庄内2次医療圏では、地域医療連携推進法人制度を活用した地域医療構想を推進し、医療、福祉、介護サービスを将来にわたり安定的に提供できる仕組みを構築されているほか、御市では地域医療政策顧問を新たに設置し、医療と介護の連携などに取り組まれているので、その状況などについてご教授いただきたい。

## 質問の内容

市内の医療環境、医療と介護の連携状況、地域医療政策顧問設置の趣旨、市の立場から日本海ヘルスケアネットの波及効果など。

## 【説明の主な内容】

### ・酒田市の概要

面積：602.98km<sup>2</sup>（庄内2,405km<sup>2</sup>で神奈川県と同程度）

人口：96,777人（うち65歳以上 36,115人）

高齢化率：37.3%

※人口と高齢化率はR5.3.31現在

### ・病院・診療所の施設数及び病床数

病院	病床数					診療所	病床数	
	一般	療養	精神	感染症	合計		一般	療養
5	734	164	340	4	1,242	93	43	10

### ・病院の病床数内訳

病院名	一般	療養	精神	感染症	合計
日本海総合病院	626			4	630
日本海酒田 リハビリテーション病院		114			114
本間病院	108	50			158
山容病院			220		220
酒田東病院			120		
合計	734	164	340	4	1,242



- ・市の立場から想定する日本海ヘルスケアネットの波及効果
  - ①訪問看護ステーションの統廃合
    - ➡4箇所合った施設を2箇所に集約。スタッフの充実が図られたことにより、夜間や休日の患者への対応も充実及び効率化が図られている。
  - ②地域包括ケアシステムの構築が推進されている。
    - ➡医療～介護、在宅医療（介護）まで、切れ目なくサービスが提供されている。
  - ③将来にわたり持続可能な医療・介護提供体制の構築
    - ➡加入している各法人の経営が安定する。また、定年退職した医師や看護師などの再雇用などにより人材が確保できる。
- ・山形大学などとの連携により、医師やスタッフの確保に不安を感じたことはない。
- ・各病院がネットで効果的な医療サービスを提供する態勢を整えないと、経営は難しい。
- ・医療ネットワーク構築、医師やスタッフの確保にあたって、県の支援はあまり感じなかった。
- ・豊岡病院組合より八鹿病院組合の方が地域密着のネットワークシステムを構築できているのではないか。
- ・「ちょうかいネット」をH23年4月に稼働
  - 医療情報の共有による急性期、回復期、在宅医療に至るまで、一貫した治療方針のもとに医療を提供できる地域医療連携体制の構築を目標としてシステムを構築
- ・「ちょうかいネット」と同目的のシステムに、豊岡病院組合が計画するシステムの22億円は高すぎる。

## 【所 感】

- ・「各病院がネットで効果的な医療サービスを提供する態勢を整えないと、経営は難しい」というのは、そのとおりと思う。
- ・「山形大学などとの連携により、医師やスタッフの確保に大きな不安を感じたことはない」ということには驚きを禁じ得ない。医師不足ではなく、医師の偏在を感じる。
- ・「日本海ヘルスケアネット」の構築にあたって、県の強い支援は感じられない。
- ・「豊岡病院組合より八鹿病院組合の方が地域密着のネットワークシステムを構築できているのではないか」「目標・目的意識が鮮明」との言及があった。

## 山形県「山形市」視察

### 【テーマ①】

小規模特認校について

#### 【出席者及び説明者】

山形市教育委員会事務局	次長（兼）学校教育課長 細谷 直樹
山形市教育委員会学校教育課	課長補佐 森谷 祐子

#### 【視察の趣旨と質問内容】

##### 視察の趣旨

本市では、児童・生徒数の減少により教育にさまざまな影響が表れてきたことから、学校再編の進め方や再編の枠組みを示すものとして、2021年に「豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画」を策定し、その後、PTAや地域の意向を踏まえて、11小学校で統廃合、2小学校で統廃合準備、2小中学校で一体型一貫校の開設準備に取り組んできた。さらに、地域住民の強い要望を受け、期間を区切って市内初の小規模特認校の開設準備を進めている。

御市では、以前から小規模特認校を開設し、豊かな歴史や恵まれた環境の下で特色ある教育を実践されているので、その状況などについてご教授いただきたい。

##### 質問の内容

特認校設置の背景や歴史、教育（運営）方針、就学状況、特色ある行事や授業内容、保護者や児童生徒の声、特別な予算措置の有無など。

#### 【説明の主な内容】

・特色ある山形市立第一小学校（市内中心部にある明治22年創設の伝統校）と山形市立山寺小学校（立石寺 通称「山寺」の麓地区に立地）に限り、「山形市特認校制度実施要綱」

に基づき学区という大前提を外し、就学を認めている。

<入学要件>

- ①市の区域内に住所を有すること
- ②保護者が特認校の教育趣旨に賛同していること
- ③特別な教育的支援が必要でないこと
- ④安全な交通手段により特認校へ通学することができること

・第一小学校全児童数227人のうち特認校在籍者数24人（5.5.1現在）



- ①全校花笠：全校児童で花笠を踊る行事
- ②自由進度学習：その子に合った方法と進度で学習する。
- ③かがやき研究発表会：3～6年生の児童らが山形市の伝統等の一つのテーマを決めて各自で研究を行う。

・山寺小学校児童数27人のうち特認校在籍者数2人（5.5.1現在）

①小中合同地区一斉清掃、小中合同運動会、小中合同入学式・卒業式：中学校併設小学校である特色を活かし、各行事を小中合同で行っている。

②山寺物語：シシ踊り 石切り唄踊り

③秋の俳句教室

・一校たりとも廃校はしないというのが市（市長）の方針である。

・第一小学校近隣に高層マンションが計画されている。児童数も増えることが予想される。



建物の左が中学校入口、右が小学校入口

### 【所 感】

・山寺小学校近辺は全国的にも著名な地域であり、空き家などはなく家屋も手入れがいきどどいている。

・山形市と仙台市を結ぶJRの電車が走っている。

・中学校併設小学校であるという点も、廃校にしないという住民意識に影響を及ぼしているように感じる。

### 【テーマ②】

シェルターインクルーシブプレイス「コパル」について



## 【出席者及び説明者】

シェルターインクルーシブプレイス「コパル」

館長 色部 正俊

山形市こども未来部こども未来課計画整備係

主幹 滝川 靖男

山形市こども未来部こども未来課計画整備係

主任 齋藤 亮介

## 【視察の趣旨と質問内容】

### 視察の趣旨

本市では、商業ビルのワンフロアを民間事業者の経営支援の目的で取得し、子育て総合拠点として屋内型の有料遊び場キッズランドを整備したほか、子育てセンター、女性の就労支援、多文化共生、高齢者の生きがい創造の場など、多様な人々が集い・交わる場として活用している。

御市では、「インクルーシブ」をコンセプトとして、性別や年齢、人種・国籍の違い、障がいの有無など、異なる背景や特性を持つ子どもたちがともに遊べる施設をPFI方式により整備し、高く評価されているので、施設見学とともに整備経過などについてご教授いただきたい。

### 質問の内容

児童館・児童遊戯施設の状況、「コパル」整備に至る背景や経過、事業内容及び事業規模、利用状況、利用者の感想など。

## 【説明の主な内容】

- ・山形市には、雨天時や冬期間に子どもたちがのびのびと遊べる施設が少なく、子育て中の保護者、特に在宅で子育てをしている保護者から、乳幼児や小学生までの子どもとその保護者が安全にのびのびと遊ぶことができ、子育て相談や保護者が交流できる機能を持った屋内型の児童遊戯施設の要望が多くあった。
- ・平成27年に策定した「山形市発展計画」において、重点施策の一つである「子育てしやすい環境の整備」の主要事業として「市南部への児童遊戯施設整備事業」を位置づけ、市内北部の施設に加え、新たな子育て支援拠点として市南部に「コパル」を整備した。
- ・用地取得から敷地造成までを「山形県住宅供給公社」が担った。
- ・PFI法に基づき設計・建設の後、市に所有権を移転した上で、運営・維持管理を実施するBTO方式により実施した。
- ・事業者は総合評価一般競争入札で選定した。
- ・総事業費は、38億56,11万8,065円
- ・施設名称は南部児童遊戯施設。ネーミングライツにより、愛称を「シェルターイ

ンクルーシブプレイス コパル」(略称：コパル)とした。契約金額は年額100万円×消費税。

- ・児童福祉法第7条に規定する「児童厚生施設」と、児童福祉法第6条の3第6項に規定する地域子育て支援拠点事業としての「子育て支援センター」を併設する。

・施設概要

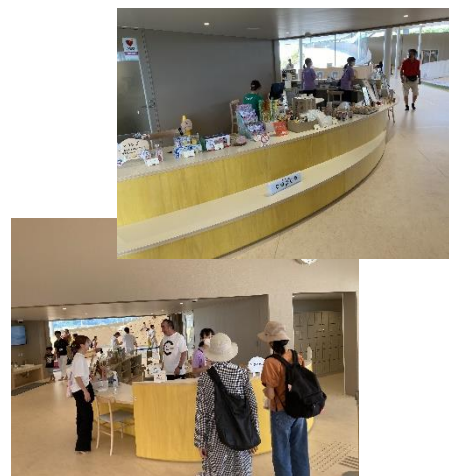
利用者数 年間15万2千人を想定

施設規模 敷地面積：22295.30㎡、建築面積3334.81㎡、延床面積3175.90㎡

建物構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨造(一部木造屋根) 2階建て

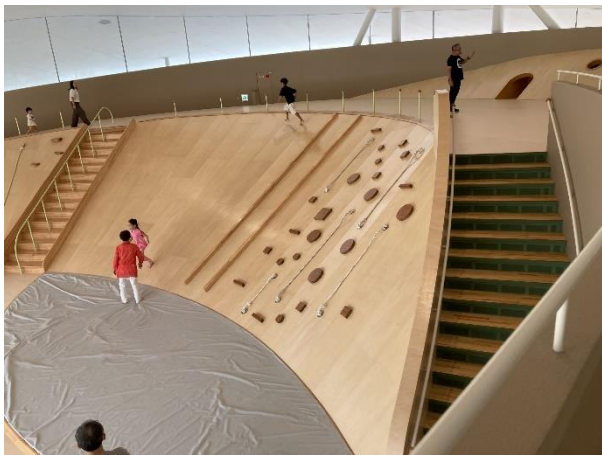
施設内容

施設	項目
屋内施設	大型遊戯場、図書コーナー、図工コーナー、視聴覚コーナー、多目的室、体育館、休憩・飲食コーナー、子育て相談コーナー、授乳室、ボランティアルーム、売店、更衣室、事務室 他
屋外遊戯施設	親水広場、イベント広場、屋外遊具、駐車場(普通車300台、障がい者用6台、バス3台)



アリーナの端に何故かテント？





天童木工の作品か？

## 【所 感】

- ・「子育て中の保護者、特に在宅で子育てをしている保護者から、乳幼児や小学生までの子どもとその保護者が安全にのびのびと遊ぶことができ、子育て相談や保護者が交流できる機能を持った屋内型の児童遊戯施設の要望」は、建築によって体現されていた。例えば設計コンセプトはこうだ。「ランドスケープと一体となるたたずまい」、「ひとつながりの空間の中に、様々な居場所をつくる」、「遊びを触発する空間」、「五感を大切に作る空間」、「障がいのあるなしに関わらず、一緒

に遊べる仕掛けをつくる」。機能的建築（安価だが）からは得られない可能性を感じさせる。

- 無料である。市外の住民も利用しているとのこと。市民の利用より多いように感じられるとのことでもあったが、そこは自治体の価値観が問われているように感じられる。

